

## 学校の概要

学校名	大石田町立大石田第一中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	1	7	16
生徒数	65	67	77	2	211	

## 研究の概要

## 1. 研究主題

生涯にわたって学び続ける生徒の育成  
個に応じた指導を通して

## 2. 研究内容と方法

## (1) 実施学年・教科

- ・ 全学年、全教科において「個に応じた指導」に重点を置いて指導方法の工夫改善に努める  
学力向上の土台は毎日の授業の積み重ねである
- その中で特に
  - ・ 全学年全時間数学・英語 TT  
個人差の大きい教科であり、より個に応じた指導を行うため
  - ・ 全学年選択数学・選択英語において補充コース・発展コース開設  
個人差の大きい教科であり、より個に応じた指導を行うため

## (2) 年次ごとの計画

平成 14 年 度	<p>テーマ</p> <p>生涯にわたって学び続ける生徒の育成 個に応じた指導を通して</p> <p>仮説</p> <p>〔仮説 1〕 意欲関心を引き出す教材の開発や、提示の仕方を工夫することによって、生徒は意欲的に授業に参加し、主体的に課題を追求するであろう。</p> <p>〔仮説 2〕 指導法・学習形態を工夫し、個に応じた指導をすれば、生徒一人ひとりが主体的に学習する意欲をもつことになり、学び方が身につくであろう。</p> <p>〔仮説 3〕 生徒の活動や学力を適切に評価して支援することにより、学習内容が高まり、生徒は満足感や成就感を味わい、次の学習への意欲をもつことができるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単元構成や指導過程の工夫、課題設定や資料提示の工夫、教材・教具の開発と発問の工夫を行い、意欲を引き出し、生徒の理解や習熟の程度に応じた指導に取り組む。</li> <li>・ 学習活動や学習形態、指導形態の工夫改善を行う。特に数学、英語の必修教科においてはTTの時間を多く設定し、効果的な学習形態や授業の展開の研究を進める。また、数学、英語の選択教科においては補充・発展の両コースを開設し、習熟度別少人数指導を実践する。</li> <li>・ レディネスの結果を活用するとともに、小テストを実施し次時へのステップとするなど評価活動や支援活動を工夫する。</li> </ul> <p>1年間を見通した全体研修計画を立て、全教職員で研究の推進を図る。また、校内授業研究会の充実を図るとともに、教科部会を計画的に持ち、それぞれの実践を積み上げて研究を推進する。</p>
--------------------	---

平成 15 年度	<p>テーマ 生涯にわたって学び続ける生徒の育成 個に応じた指導を通して</p> <p>仮説 (1) 魅力的な課題提示や個々の生徒の興味関心に応じる教材・教具を開発する。 (2) ねらいを明確にして個に応じた指導方法を工夫する。 (3) 規準を明確にして適切に評価・支援する。 (1)～(3)を意図的に単元や授業に組み入れ、実践を重ねていけば、生徒一人一人の力を伸ばし、満足感や成就感を味わわせて、次の学習への意欲をもたせることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法 研究テーマ・目指す生徒像・仮説を具体化するため、各教科の「目指す生徒像」「仮説具体化の方策」を設定する。 数学、英語の必修教科においては全学年全時間を2人体制(TT)で配置し、効果的な学習形態や授業の展開の研究を進める。一斉指導のよさも生かしながらねらいと生徒の実態に応じて少人数指導を実施していく。 選択教科においては、多様なコースを開設し、それぞれの生徒に適した選択教科が履修できるようにする。特に数学・英語については全学年で基礎・発展の両コースを開設し、理解や習熟の程度に応じた指導を行う。 全体での授業研究会を年4回実施し、授業実践を行いながら、授業内容の改善を図る。各教科で個に応じた指導のあり方に迫る。特に数学、英語ではTTによる指導形態の工夫改善を行い、より効果的な指導のあり方を探る。また、単元の指導計画の中に少人数指導の時間を計画的に設定する。これまでの研究の中間発表を行う。</p>
----------------	--

平成 16 年度	<p>テーマ 生涯にわたって学び続ける生徒の育成 個に応じた指導を通して</p> <p>仮説 (1) 魅力的な課題提示や個々の生徒の興味関心に応じる教材・教具を開発する。 (2) ねらいを明確にして個に応じた指導方法を工夫する。 (3) 規準を明確にして適切に評価・支援する。 (1)～(3)を意図的に単元や授業に組み入れ、実践を重ねていけば、生徒一人ひとりの力を伸ばし、満足感や成就感を味わわせて、次の学習への意欲をもたせることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法 各教科でさらに個に応じた指導のあり方を探る。数学・英語では、少人数指導のグループ分けの工夫や評価の工夫をする。公開研究を実施し、研究のまとめを行う。</p>
----------------	--

(3) 研究推進体制



